

# 1 「協同的探究学習」による授業の実践

## (1) 授業研究 (英語科3年) (7月18日)

現在完了形を用いた自己紹介文で「よりよいスピーチ」を考え、文を修正する授業を行った。導入問題は全て宿題としており、授業では協同探究から始まった。協同探究1では、各自の紹介文をグループで読み合わせた。協同探究2では、班員の良い表現を発表しあい表現方法についての学びを深めた。



### ① 指導目標

- ・ 接続詞や代名詞を含む、つながりのある文を用いて自己紹介文を書けるようになる。
- ・ より内容の充実した文章が書けるようになる。
- ・ 他の生徒が書いた英文の良さに気づき、自分の表現活動に取り入れることができるようになる。

### ② 本時の展開

	教師の活動	生徒の活動	留意点
Greeting 1min	挨拶をする	挨拶をする	
Warm-up Bingo 10min	words bingo を行う ・ 単語を発音し、スペルを確認する	words bingo を行う ・ T が読む単語を繰り返して発音する。	生徒に大きな声で単語をリピートさせる
Introduction Today's topic 3min	前回出していた課題を確認する。	ファイルから宿題のプリントを取り出し、自分の作文を確認する。	忘れていた生徒がいないか、確認する。
Group work 15min	4人の班を作らせ、自己紹介文を回し読みさせる。	班員の作文の中に良い表現を見つけ、プリントに記入していく。どのような良い表現があったか、ホワイトボードに記入し黒板に掲示。	作文の検討が良くできているか観察する。
15min	班の中でみつけた良い表現を発表させる。	ワークシートに、良い英作文の条件についてメモを取る	生徒が見つけた点を、評価する。
Individual work 5min	今回の授業の中で見つけた良い点を取り入れて、自分が書いた作文を再考させる。	自分の作文を見直し、付け加えたほうが良い点や、修正が必要な点を改良し、清書する。	それぞれの生徒がどのように作文を改善できるか、アドバイスをする。
Greeting 1min	挨拶をする	挨拶をする	

授業後の協議会では、

- ・ 協同探究1の時間配分を短く、協同探究2の時間を長く確保することで、より深い学びになったのではないかと感じた。
- ・ みんなが認められるような雰囲気があり、英語力を伸ばす時間になった、と感じた。
- ・ 生徒の文法的な細かい間違いはあったにしても、紹介文の内容構成や表現を向上させることに主眼を置いたことがよかった。等の指導を受けた。

(2) 授業研究 (英語科3年) (10月12日)

現在分詞や過去分詞等を用いた人物紹介文で「聞く人を引き付けるスピーチの表現」を考え、文を修正する授業を行った。1回目の授業の反省を踏まえ次の点を改善した。

- ・個別探究の導入問題を授業中でも取り入れ、スモールステップで取り組めるように導入問題の発問を工夫した。
- ・協同探究した班の成果を黒板に貼りっぱなしにし、黒板を思考の道具にした。
- ・時間配分を調整し、個別探究の発展問題を授業時間内に行った。

①指導目標

- ・聞き手を引き付けるためにはどんな工夫が必要かに気づく。
- ・現在分詞や過去分詞を使い紹介したい人の詳細な情報をスピーチに入れることで、より内容の充実した文章が書けるようになる。
- ・他の生徒が書いた英文の良さに気づき、自分の表現活動に取り入れることができるようになる。
- ・自分の書いたスピーチの良い点を認めてもらうことで、発表への不安感を軽減する。

② 本時の展開

	教師の活動	生徒の活動	留意点
Greeting 1min	挨拶をする	挨拶をする	
Introduction Today's topic 3min	前回出していた課題を確認する。	ファイルから宿題のプリントを取り出し、自分の作文を確認する。	忘れていた生徒がいないか、確認する。
Group work (協同探究1) 15min	4人の班を作らせ、自己紹介文を回し読みさせる。	班員の作文の中に良い表現を見つけて、プリントに記入していく。どのような良い表現があったか、画用紙に記入し黒板に掲示。	班の中で、作文の検討が良くできているか観察する。
Class work (協同探究2) 15min	班の中でみつけた良い表現を発表させる。	ワークシートに、良い英作文の条件についてメモを取る	生徒が見つけた点を、評価する。
Individual work (再度の個別探究) 15min	今回の授業の中で見つけた良い点を取り入れて、自分が書いた作文を再考させる。	自分の作文を見直し、付け加えたほうが良い点や、修正が必要な点を改良し、清書する。	それぞれの生徒がどのように作文を改善できるか、アドバイスをする。
Greeting 1min	挨拶をする	挨拶をする	

授業後の協議会では、

- ・宿題で7文を作ることは、最終目標にして、3文くらいから始めるとよい。
- ・グループで読み合わせることは、一見、地味に見えるがとてもよいことで、一人一人が思考を巡らして考えようとしていた。
- ・メモを日本語で書かせたことは、英語が苦手な生徒にとってもできるので、とてもよいこと。ユニバーサルデザインでもある。
- ・協同探究は自分の取組を評価してもらえる。自分でもできる、といった自己肯定感が得られる。そのため、初めは問題のハードルを低くして、「俺でもできるかな」と期待をもたせたことがよかった。等の指導を受けた。

(3) 授業公開 (英語科2年) (12月21日)

11月に行われた都内巡りの校外学習において、見た場所、建物について紹介スピーチを書く。一緒に行動した班で「聞く人にとってわかりやすいスピーチ」を3分以内で発表させ、互いのスピーチの良い表現を取り入れ、さらによいスピーチを作る。



① 指導目標

- ・聞く人が理解し納得できるように、わかりやすいスピーチをする。
- ・スピーチは今まで学習した文法や連語が多用し、これまでの学習の成果を表現する。
- ・他の班のいい文章を参考にし、自分たちの班の原稿をさらによいものに仕上げる。

② 本時の展開

	教師の活動	生徒の活動	留意点
Greetings1分	挨拶をする	挨拶をする。	大きな声で。
Introduction Today's topic 3分	概要を説明する。	指示などを聞く。	しっかり理解させる。
group presentation 練習3分 発表18分	・各班が3以内にスピーチが終わるようにタイマーを設定する。	①練習 ②班ごとにスピーチを行う。	・聞き手を意識し、大きな声でわかりやすく発表させる。 ・班の中で協力させる。
①individual work→ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">班体型にさせる</span> 3分 group work 7分	・他の班のスピーチ原稿(プリント)を配布する。 ・各班の原稿の良い点(文法・表現)をまとめ、発表する。	・別の班の良い箇所をプリントに書き込む。(個人→班) ・表者は書き込んだことを発表し、クラスで情報を共有する。	・まず個人で考えさせる。 ・班員全員で意見を出し合い、情報を共有させる。 ・大きな声で発言させ、全員にしっかり必要情報を書かせる。
group work 10分	・机間巡視する。 ・写真と代表者の原稿を回収する。	・スピーチ文を校正する。他の班の原稿の良いところを取り入れる。	・生徒全員活動に参加させる。 ・写真と代表者の原稿を提出させる。
Greetings 5分	振り返りと挨拶。宿題などを伝える。	挨拶をする。	最後は全員で気持ちが1つになるようにする。

授業後の協議会では、

- ・校外学習で訪問した先に関連づけて授業のテーマが設定されていることが、生徒一人一人の「わかる学力」を育てる上で有効と感じた。
- ・授業の最後に、短時間でも個人に返す場面があってもよかった。
- ・1時間の授業で、文法だけを気にしていた生徒がスピーチの構成まで考えるようになった。
- ・ある班では、ある単語を日本語のまま取り入れたので分かりやすい。こんな表現があつてよい。
- ・「できる学力」を高めるときは、協同的探究学習をやる必要はない。等の指導を受けた。

2 「体力向上」の授業実践

(1) 公開授業（保健体育科1年男子）（10月24日）

従前のような一律的な準備運動ではなく、運動種目に合った準備運動（ウォーミングアップ）を取り入れ、生徒が運動への意識を高めるとともに技能が向上するように授業展開をする。

① 指導の工夫

ア 準備運動（ウォーミングアップ）の内容

準備運動は五つの動きで構成し、整列隊形ごとに4人～5人のグループを編成して行う。

(ア) シンクロランニング（3分）

- 背中にボールを当てながら、ボールを落とさないようにランニングする。
- 30秒程度で先頭の生徒は交代していく。

(イ) コースドリブル（3分）

- 先頭の生徒が自由にコースを決めてドリブルする。
- 右手のみ、左手のみ、両手など制限をつけながら練習を行う。30秒程度で先頭の生徒は交代していく。

(ウ) 円陣パス（3分）

- グループで円になり、声を掛け合いながらリズムを合わせてパスをする。
- 自分だけでなく、互いの動きを合わせながらパスを出して動くことを意識させる。
- 円の大きさを変える、パスのリズムを速くするなどの工夫し、難易度を変えながら行う。

(エ) ボールストレッチ（3分）

- ゆったりとした曲に合わせて、ボールを使いながらペアでストレッチを行う。
- ストレッチをしながら互いの動きを見合うことを意識させる。

(オ) ドリブル&パス（3分）

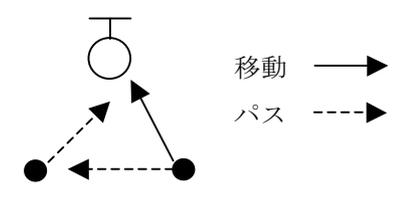
- 個人で自由にドリブルしながら、互いの動きを見て呼吸を合わせてパスをする。

② 本時（9時間扱いの第7時間目）

(ア) ねらい

- ゴール前での攻防や空間に走り込む動きを身につける。

(イ) 展開

時間	具体的な学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
導入 15分	① 整列・挨拶 本時の内容説明 ② ウォーミングアップ ドリブル・パス・ストレッチ	・ホワイトボードを用いて、本時のねらいや授業の流れを確認する。 ・チームで声を掛け合いながら活動させる。	ア③（観察）
展開 10分	①レイアップシュート ・各ゴールで2列をつくり、パスを出し、カットインからレイアップシュートを行う。 	・パスの受け手は、ゴール前の空いているスペースにタイミング良く動いてボールを受けることを意識させる。 ・ハンドシグナルで自分がボールをもらいたい場所を示すことを意識させる。	ウ①（観察）

20分	② 3対2 ③ 4対2 ・クラスごとに分かれ、攻撃側が数的優位な状態でゲームを行う。	・攻撃者はレイアップシュートの練習で意識した、仲間と連携した動きから得点できるようにする。 ・攻撃者はコートスペースを上手く使い、守備者が守りにくいように工夫させる。	ア①（観察） ウ②（観察）
まとめ 5分	① 整列・学習カード記入 ② 本時のまとめ・次時の連絡 ③ 挨拶	・空間に走り込む動きでゴール前での攻防を展開できたかを確認させる。 ・学習カードに振り返りや次回の目標などを記入する。	イ①② (学習カード) エ①② (学習カード)

(ウ) 授業観察の視点 \*事後協議で特に意見やアドバイスをもらいたいこと

- 全体を通して生徒は授業に集中できていたか、配慮が必要な生徒への対応は適切であったか。
- 健康や安全には十分に配慮されていたか。

授業後の協議会では、

- ・「体力向上」の内容には、「からだづくり運動」があり、「体力を高める」と「体ほぐし」になる。ウォーミングアップの工夫は、「体ほぐし」の一つで重要なことである。
- ・運動が苦手な生徒には楽しい時間だが、得意な生徒にはものたりないのではないかと。  
→ 難易度を上げる工夫をしたい。
- ・ウォーミングアップ時に音楽を流すのはよいが、流し続けてよいものか。自分がパスを出すときは、自ら声を出して相手が気付くようにしたもののだが。 等の意見があった。

### 3 成果

- 他の教科でも、「できる学力」「わかる学力」を意識し、「協同的探究学習」に取り組む見通しができること。
- 「主体的、対話的な学び」まではこれまでも実践していたが、協同的探究学習を通して「深い学び」に導く指導方法を学ぶことができた。
- 「わかる学力」の向上のために、安心して発言できる学級、互いの意見や考えを尊重できる学級づくりが大切であることに気付いたこと。
- 生徒が意見を発表するとき、理由や根拠をしっかりと述べるできるようになった。
- ウォーミングアップでの動きが、試合の場面で関連づけられている姿が見えた。技能の向上に効果があった。 等

### 4 課題

- 今年度、英語科で実践した「協同的探究学習」の授業方法を他教科でも実践し、「主体的、対話的で深い学び」に結びつけることが課題である。
- 基本的な授業の構成や進め方を習得することはできたが、さらに授業を工夫し授業力の向上に努めること。
- 協同探究の後、個別探究の時間確保が課題になる。
- ウォーミングアップにおいては、各単元に合わせた動きの種類やバリエーションを増やしていくこと。

以上のような課題がある。今後も継続して取り組み、本研究のねらいが達成できるように教員全員で取り組んでいく。